

● 単元内自由進度学習・探究学習 ●

自分のよさや可能性を信じ、 自立して学び続ける子どもの育成 ～学び手中心の授業づくりを通して～

東京都 小金井市立南小学校（校長 檀原延和）

- ① 子どもたちの主体的な学びを促進
- ② 単元内自由進度学習とチーム研究の校内研究
- ③ 単元内自由進度学習（５年生）と探究学習（６年生）の実践事例
- ④ 自立した学び手としての児童の成長
- ⑤ 学び手中心の教育を学校全体へ展開

小金井市立南小学校は、1973 年開校の、都立武蔵野公園に隣接する自然豊かな公立小学校である。「人間愛に根ざし、自他の生命と人格を尊重し、知・徳・体の調和した、豊かな個性と創造力をもち、心も体も健康な南小の子供を育てる」を教育目標に掲げ、子供たちはのびのびと学校生活を送っている。

本校は、児童一人ひとりが自分の良さや可能性を認識し、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら社会の変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることを目指している。

重点目標である「ふかく考える子」の育成では、他者と協働して問題を解決できる児童の育成のため、個別最適な学びと協働

的な学びの充実、探究的な学習を推進する。

望ましい集団の中で、どの子供にも居場所や活躍の場があり、一人ひとりが認められ、生かされている学校、そして、「今日が楽しく、明日が待たれる学校」を目指している。



I はじめに

現代社会は、情報技術の急速な発展、グローバル化の進展、そして人工知能（AI）の進化といった、多岐にわたる要因によって、かつてないほどの複雑で予測不可能な変化を経験している。これらの変化は、社会構造、産業構造、そして人々の生活様式にまで深い影響を与え、従来の教育システムが前提としていた知識やスキルだけでは、子どもたちが将来、社会で活躍するために十分とは言えなくなっている。

知識基盤社会とも呼ばれる現代社会では、情報が容易に手に入るようになった一方で、その情報の真偽を見極め、必要な情報を取捨選択し、創造的な問題解決に繋げる能力が不可欠である。さらに、AIの進化は、ルーチンワークや単純な知識労働を代替しつつあり、人間にはより高度な思考力、創造性、コミュニケーション能力、そして協働性が求められるようになってきている。

このような社会の変化に対応するため、文部科学省は、令和3年答申において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を掲げ、教育改革を推進している。この答申では、「個別最適な学び」を「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理し、児童生徒が自己調整しながら学習を進めることの重要性を指摘している。

「指導の個別化」は、全ての子どもに基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるために、教師が支援の必要な子どもに重点的な指導を行ったり、子どもの特性や学習進度、到達度に応じて指導方法や教材を柔軟に提供したりすることを指す。一方、「学習の個性化」は、子どもの興味・関心やキャリア形成の方向性に応じて、教師が

個別の学習活動や学習課題を提供し、子ども自身が学習を最適化できるように調整することを指す。

さらに、「学習の個性化」においては、子どもたちが自分のキャリア形成の見通しの中で、個性や能力を生かして学びを深め、将来の活躍に繋げることができるよう、多様な学習機会を提供することが期待されている。

しかし、これまでの教育現場においては、教師が中心となり、子どもたちが受動的に学習する傾向が強かった。これは、子どもたちの主体性や創造性を十分に引き出す上で大きな課題であるといえる。これらの課題は、単に授業の方法論を改善するだけでは解決できない。教師の意識改革、学校全体の教育文化の変革、そして社会全体の教育に対する認識の変化が必要である。

本研究は、このような背景を踏まえ、文科省が推進する「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実という方向性を踏まえつつ、子どもたちが自らの可能性を信じ、主体的に学び続ける力を育成することを目指す。「学び手中心の授業づくり」を研究テーマとし、子どもたちが自らの興味・関心に基づき、自立的に学習を進めることができる教育を構築することを目的とする。この研究は、単に授業の方法論を改善するだけでなく、教師の意識改革や学校全体の教育文化の変革を目指すものである。

II 研究主題について

本校では、長年にわたり国語科を中心とした研究を継続してきた。その蓄積は確かな成果を生み出してきた一方で、教科を限定した研究体制による教師間の温度差や、

新たな挑戦を阻む側面も浮き彫りとなってきた。また、本校の児童の実態として「教わる」「習う」ことは得意であるが、自分の学びに責任をもち、自分の学びを選択・決定しながら学び取っていく力が弱いことも指摘されていた。

このような背景から、校内研究主題を「自分のよさや可能性を信じ、自立して学び続ける子どもの育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指して～」と刷新し、新たな研究の第一歩を踏み出すこととした。

Ⅲ 研究方法について

1. 2教科同時進行単元内自由進度学習の実践

本研究で行う「自由進度学習」は、東浦町立緒川小学校が実践する「週間プログラム学習」（週プロ）に基づいて行った。

週プロの中核を成すのは、「自律した学

習者の育成」という理念である。教師が一方的に知識を伝達するのではなく、子どもたち自身が学びの主体となり、自ら考え、行動する力を育むことを目指す。この理念は、個別最適な学びの実現と密接に結びついており、子どもたちの興味・関心、能力、学習スタイルに合わせて、学習内容、方法、進度を自由に選択できる環境を提供する。

週プロは、単元全体を通して行われる学習活動であり、以下のプロセスで進められる。

①ガイダンス

単元の導入段階で、教師は学習目標、内容、時間配分などを提示し、子どもたちの学習意欲を高める。この際、学習内容を踏まえて、児童への提示方法を工夫する。

②学習計画の立案

児童は提示された情報をもとに各自で学習計画を立てる。学習内容の選択、学習順

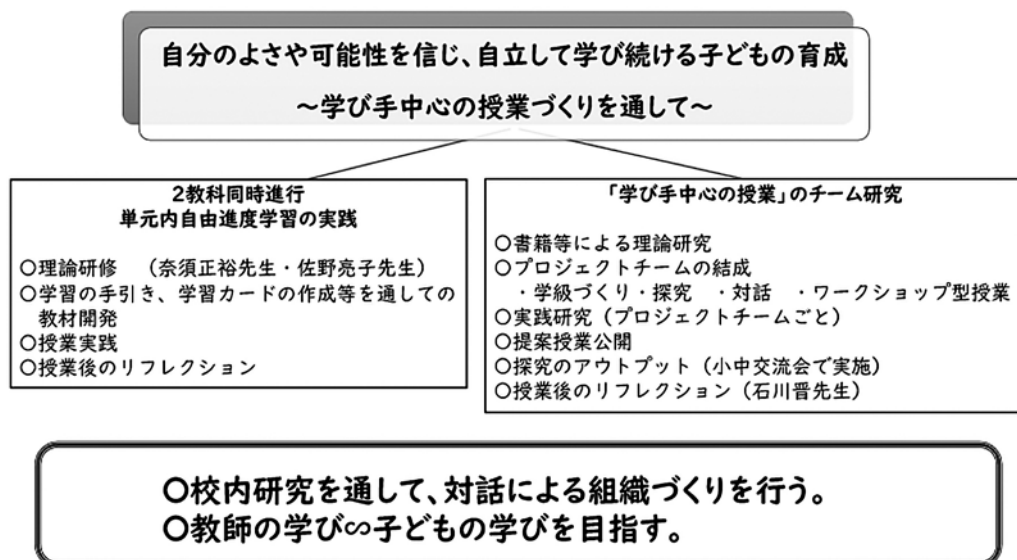


図1：研究構想図

序、時間配分、使用する教材などを自己選択、自己決定する。

③個別学習の実施

計画に基づき、各自が希望する場所で学習を進める。主に、学習カードを使用して学びを進める必修課題と、その課題が終わった後に取り組む発展課題を設定する。各回の授業終了後には、学習計画表に振り返りを記入する。

④計画の見直しと調整

学習の進捗状況に合わせて、計画を柔軟に見直し、調整する。計画通りに進まない場合、原因を分析し、修正を加える。

⑤教師の支援

教師は子どもたちの学習状況を把握し、個別指導や助言を行う。学習環境の整備、教材の準備、質問対応など、多岐にわたる支援を提供する。

⑥教師間の振り返り

授業後、教師間で児童の学習状況を共有し、支援方法を検討する。情報共有と協働を通じて、より効果的な学習支援を目指す。

⑦年間を通した設定

今年度は各学年1～3回、約3週間のタームを設定し、実践を行う。また、公開授業を9月、11月、1月と3回設定する。

2. 「学び手中心の授業」のチーム研究

4月から7月にかけては、文科省の答申や様々な教育方法についての書籍を読み、読書会を開いたり、ワークショップを体験

したりすることとした。その後、教師の探究したいテーマを出し合い、チームを結成する。結成されたチームは以下の4つである。

また、チーム研究のアウトプットの場として、2月の小中交流会で近隣の中学校1校、小学校1校の教職員に向けて、探究活動について発表を行うこととする。

<チーム>

①学級づくりチーム

児童が主体的に学級活動に参加できるような、学級会の運営方法やルールづくりを研究した。また、児童同士が協力し、学び合うことができるような、グループワークや協働学習のあり方を模索した。

②探究チーム

児童が自らの課題を設定し、主体的に探究活動を進めるための、探究学習のプロセスや評価方法を研究した。また、探究活動に必要な情報収集や分析のスキルを育成するための、指導方法の開発を目指した。

③対話チーム

児童同士や教師と児童の対話を促進するための、対話型学習のあり方を研究した。対話を通して、児童の思考力や表現力を育成するための、指導方法の開発を目指した。

④ワークショップ型授業チーム

児童が主体的に参加し、体験を通して学ぶことができるワークショップ型授業について研究した。様々な教科において、ワークショップ型の授業を実施し、その効果を検証することを目指した。

Ⅳ 研究の実践

1. 単元内自由進度学習の実践（5年生）

<単元>

- ・社会 「高い土地の暮らし」
「あたたかい土地の暮らし」
- ・算数 「合同な図形」

<単元の目標>

- ・社会
 - (1) 教科書や地図帳や資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、自然などの様子や高い土地、あたたかい土地にくらす人々の生活を理解する。
 - (2) 国土の自然などの様子や高い土地、あたたかい土地の人々の生活について考え、表現する。
- ・算数
 - (1) 「合同」の意味を理解し、図形の合同の調べ方を工夫して考えることができる。
 - (2) 「対応する」という用語を知り、合同な三角形・四角形の対応する頂点・辺・角について理解する。
 - (3) 合同な図形の性質を説明できるようになる。
 - (4) 合同な四角形・三角形の能率的な書き方を考えられる。(定規、コンパス、分度器を使える。)

<学習の手引き>

学習の手引きは、単元の全体像を把握するための羅針盤となる。児童は、単元の学習目標や内容をまとめた「学習の手引き」を基に、自らの学習計画を立て、学習を進めていくことになる。単元の目標については、この学習をスタートするときに行うガイダンスで、児童に伝える。

・社会

児童の学びやすさの視点から、単元ごとに「テキストコース」と、「ミニ旅行コース」の2つのコースを設定した。児童は自分にとってどのコースが学びやすいか考え、自己選択することにした。

(1) テキストコース

教科書、資料集、動画教材などを活用し、教科書の進め方に沿って学習を進めるコースである。

5年 あたたかい土地の暮らし（沖縄県）自由進度学習の手引き				
名前				
単元の目標				
知識・技能:教科書や地図帳や資料で調べて必要な情報を集め、読み取り、自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活を理解する。(学習カード チェックテスト) 思考・判断・表現:国土の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活について考え、表現する。(まとめるワークシート)				
★学習のながれ（テキストコース）…標準時間4時間				
学習内容	教科書	学習カード	学習カード	テキスト他
① 沖縄県の家や人々のくらしの工夫について調べる	P48.49	学習カード①		資料集 p26
② 沖縄県のあたたかい気候を生かした産業について調べる	P50.51	学習カード②		資料集 p27
③ 沖縄県のあたたかい気候を生かした観光について調べる	P52.53	学習カード③		資料集 p27
④ 沖縄県の文化について調べる	P54.55	学習カード④		
⑤ あたたかい土地のくらしの特色についてまとめる	P56	まとめるワークシート		資料集 P22.23
●チェック● テキストを受けて自分で丸付け・提出する				
★チャレンジ学習★				
・沖縄料理のレシピを調べて、紹介する				
・「あたたかい土地の暮らし」のワークテストをつくる				
・紙粘土でシーサーをつくる				
・沖縄紹介CM(2分動画)をつくる				
・沖縄の古民家を、割りばしでつくる				
・沖縄の課題を書き出し、クイズをつくる				
・エイサーの踊りを調べて、踊る				
・琉球王国の歴史や建物を調べて、紹介パンフレットをつくる				

図2：あたたかい土地の暮らし テキストコース

(2) ミニ旅行コース

動画教材を参考にして、その土地のくらしの様子を見学する旅行プランを作成し、地域の特長や人々の生活を理解するコースである。

5年 高い土地のくらし (群馬県嬭恋村) 自由進度学習の手引き

名前

単元の目標

① 教科書や地図帳や資料で調べて必要な情報を集め、読み取り、自然などの様子や高い土地の人々の生活を理解する。

② 国土の自然などの様子や高い土地の人々の生活について考え、表現する。

★学習のながれ (嬭恋村ミニ旅行コース) …標準時間4時間

学習内容	教科書	学習カード	テキスト他
① 嬭恋村の駅舎を見て、分かったことを書く ・ 嬭恋村を学ぶ ～嬭恋村の特徴～ ・ 村を量かにするために	P32・39	学習カード④	資料集 p22.23
② 嬭恋村の地図を見て、回るコースを決めて、かきこむ	P32・39	嬭恋村の地図	資料集 p22.23
③ 訪れる場所の説明をカードにかく	P32・39	説明カード	資料集 p22.23
④ 地図に貼ってまとめる	P32・39	嬭恋村の地図	資料集 p22.23

★チャレンジ学習★

・ 嬭恋村紹介パンフレットをつくる
・ 「高い土地のくらし」のワークテストをつくる
・ 嬭恋村に移住しようと考えている人に向けて、嬭恋村の住民になりきって紹介動画をつくる
・ 嬭恋村の野菜をつかったレシピを調べる

図3：高い土地のくらし ミニ旅行コース

・算数「合同な図形」

算数は1コースとした。基本的な作図技能や合同の概念を習得する必修の課題と必修課題が終わった児童から自分の取り組んでみたい学習に挑戦することができる発展課題を設定した。



図4：算数 発展課題に取り組む児童

5年 「合同な図形」学習のてびき

名前 ()

目標

・ 「合同」の意味を理解し、図形の合同の調べ方を工夫して考えることができる。
・ 「対応する」という用語を知り、合同な三角形・四角形の対応する頂点・辺・角について理解する。
・ 合同な図形の性質を説明できるようにする。
・ 合同な四角形・三角形の標準的な書き方を考えられる。(定規、コンパス、分度器を使用する。)

★チェック1 学習カードの提出
★チェック2 学習カードの提出
★チェック3 ゼックタストを受ける

学習の流れ

	学習内容	教科書	学習カード	答えカード
1	どのゲームにしまえばいいかな?	P.72		
2	同じ大きさの図形を探そう。	P.73	学習カード1	答えカード1
3	2つの図形を重ね合わせずに、合同かどうかを説明しよう。	P.74・75	学習カード2	答えカード2
4	対応する頂点、辺、角について理解し、合同な図形の性質を説明できるようにする。	P.75	学習カード3	答えカード3
5	四角形を1本の対角線で分けてできた三角形が合同であるかどうかを調べよう。	P.76	学習カード4	答えカード4
6	四角形を2本の対角線で分けてできた三角形が合同であるかどうかを調べよう。	P.76	学習カード5	答えカード5
7	★チェック1 学習カード1～5を先生に見せる。			
8	合同な三角形の書き方を考えよう。	P.77・79	6・7・8・9	6・7・8・9
9	合同な四角形の書き方を考えよう。	P.80・81	10	10
10	プレゼントを受ける。	P.82		
11	★チェック2 学習カード6～10を先生に見せる。			
10	★チェック3 プレゼントを受ける (学習カード1～10の内容)			

図5：合同な図形

<発展課題>

どの単元においても、必修課題を終えた児童は発展課題に取り組む。児童が「やってみたい」「おもしろそう」と思えるような教材を開発した。

・社会

- 嬭恋村や沖縄のパンフレットをつくる
- 自分でワークテストをつくって解く
- 嬭恋村、沖縄の紹介動画をつくる
- シーサーの意味を調べ、紙粘土でつくる
- エイサーの踊りを調べ、踊りを覚え、動画を撮る
- 沖縄のミニチュア古民家をつくる
- 嬭恋村の野菜をおいしく食べるレシピを調べて家でつくってみる
- 沖縄料理のレシピを調べ、家でつくってみる



図6：社会発展課題ボード

・算数

- 東京五輪のエンブレムにかくされた図形を探す
- 東京五輪のエンブレムとパラリンピックのエンブレムとを比べて合同な図形を探す
- 合同な図形を使って、広告をつくる
- 校庭に大きな合同な図形を書いてみる
- 「合同な図形」新聞をつくろう。
- 平行四辺形、長方形、正方形、菱形、円は、最低限何がわかると合同な図形が書けるか調べて説明する
- 敷詰めた三角形の中から台形や平行四辺形を見つけ、その理由を説明する
- 教科書 p.82 をノートに書いて解く
- パターンブロックでしきつめもようをつくる
- エッシャーの模様をつくる
- 合同な図形のかき方を生かして、サッカーボールをつくる



図7：算数の発展課題ボード

＜学習環境づくり＞

本校が取り組む単元内自由進度学習は、児童を「有能な学び手」と捉え、自力での学習を重視する。この学習を成功させる鍵は、子供たちが自らの力で学びを進められるよう、適切な教材を過不足なく用意することである。

教室内に配置された資料や掲示物は、思考を深め、学習を促進するための重要なツールとなる。また、単元内自由進度学習では、教師による一斉指導は行わない。そのため、児童が自律的に学習を進められるよう、これらの教材は綿密に準備される必要がある。適切な教材が揃うことで、児童は自らのペースで、主体的に学びを深めていくことができる。

具体的には、以下のような工夫を行った。

①学習スペースの構成

グループワークや発表など、多様な学習活動に対応できるオープンスペースを確保した。また、ものづくりや実験など、実体験を伴う学習活動に対応できるスペースをつくった。さらに、学習内容や児童の人数に合わせて、机や椅子の配置を自由に変更できるようにした。

②教材の整備

教科書や資料集だけでなく、児童の興味・関心を引くような、多様な教材を準備した。教材は、児童が自由に手に取ることができるように、オープンな場所に配置した。

③掲示物

児童の学習意欲を高めるような掲示物を、児童自身が作成し掲示できるようにした。学習内容や進捗状況を可視化する掲示物を掲示した。



図8：社会の学習環境

④ものづくりコーナー

様々な材料や道具を準備し、児童が自由にものづくりに挑戦できるコーナーを設置した。児童の作品を展示し、互いに評価し合うことができるようにした。

<児童の様子と振り返り>

単元内自由進度学習は初めての経験であったが、課題に対して前向きに取り組む児童が多くみられた。「自分の力でしっかり学ぶ」という言葉を合言葉にして、学習に取り組んだことで、児童は自立した学び手として大切にしていけることに気付くことができた。

一方で、学習が停滞した時に自分から助けを求められない児童の姿も見られた。このようなとき、従来の一斉指導の場面では、教師が先回りをして、声をかけることが多かった。自分の力で学習を進める学習方法だからこそ、友達や教師に適切な援助希求ができる児童を育てていくことの重要性を感じた。

2. 探究チームの実践（6年生）

①単元名 「探究～木を通して～」

②単元について

6年生は、昨年度にSDGs、1学期に林業体験及び探究活動を行ってきた。2学期からはその発展として、小金井市の木について自分なりの問いをもち、個人探究を進められるようにした。

③学習活動について

（1）自分なりの問いをもつための共通体験

単元の入り口として、学年で共通の活動を行った。

①小金井市環境部環境政策課 緑と公園係
に来ていただき、市内の木にまつわる
ことについて講義を受ける。

②学校に隣接する都立武蔵野公園へ行
って、木を実際に観てくる。

③担任3人が、自分なりに木に関して考
えていることを児童にプレゼンをする。

A教諭…小金井市の御神木について

B教諭…木で炭ができること、

C教諭…他市の桜を守る取組内容について



図9：武蔵野公園の観察

(2) 自分なりの問いをもつ

林業体験から始まった様々な共通体験を経て、児童は自分なりの問いをもつことができた。児童は、以下のような問いをもった。

- ・草木染ってどうするのだろう？
- ・木で操り人形を作りたい。
- ・鳥と木の関係は？
- ・下草と木の葉、デンプンが多いのはどちらか？
- ・減ってきている小金井市の桜の木を増やすためには？
- ・緑のたくさんある未来の小金井市の街をジオラマで作ってみたい。

(3) 問いに向き合う児童の姿

自分なりの問いをもった児童は一人一人、探究していった。図工室で工作に取り組んだり、理科室で実験を行ったり、書籍から情報を見つけたりと、探究のプロセスは様々であった。

探究に行き詰ったときは、お助けコーナーで友達に相談できるような体制を整え、緩やかな関係性のもとで、互いに支援し合う姿も見られた。



図 10：図工室での探究の様子

(4) 探究発表会「南小ミュージアム」

2学期から始めた個人探究のアウトプットの場として、「南小ミュージアム」を実

施した。

保護者に参観を呼びかけ、児童一人一人がブースを開き、これまでの自分の探究のプロセスを伝えた。作品を見せ、説明したり、その場で見に来てくれた方が体験できるような場をつくったり、調べてきたことを発表したりと、発表の様子も様々であった。うまくいかなかったことも含めて、自分が取り組んできたことを、自分の言葉で生き生きと伝える児童の姿が見られた。

V 研究の成果

1. 児童の学習意欲の向上

自らの興味・関心に基づいて課題を選択することで、学習へのモチベーションが向上した。また、課題解決に向けて、積極的に情報収集や試行錯誤を行う姿が見られるようになった。

2. 自立した学習者としての意欲の向上

学習計画を立て、その進捗を自分で管理することを通して、自己調整力の大切さに気付いた。また、他者と協力して学ぶことの大切さに気付いた。課題の解決方法を自分で考え、実行する児童が増えた。

3. 教師の意識変革

教師自身が探究者となることで、授業に対する意識が変わり、児童への理解が深まった。また、学び手中心の授業づくりに関する知識やスキルが向上し、授業改善に対する意欲の高まりが見られるようになった。さらに、教師同士の連携が強まり、互いに学び合う姿勢が生まれた。

Ⅵ 今後に向けて

本研究の成果を踏まえ、今後は以下の方
ことに取り組みたい。

まず、単元内自由進度学習を年間2回展
開し、児童の主体性を一層引き出す。また、
生活科、総合的な学習の時間を深化させ、
自らの興味・関心から学びを進める力を育
成する。最後に、教師の学び続ける姿勢を
醸成し、学び手中心の教育を学校全体で推
進していきたい。

(研究主任：村上聡恵)